

# 今こそ 三方よしの精神を

## 末永國紀(すえなが・くにとし)

1943年福岡県生まれ。1973年同志社大学大学院経済学研究博士課程修了。1973年～京都産業大学経済学部専任講師、准教授、教授。1988年～(財)近江商人郷土館館長。1998年～2000年UBC客員研究員。同志社大学経済学部教授。著書『近代近江商人経営史論』有斐閣、1997年。『近江商人-現代を突き抜くビジネスの指針』中央公論新社(中公新書)、2000年。『近江商人学入門-CSRの源流「三方よし」』サンライズ出版、2004年。『日系カナダ移民の社会史～太平洋を渡った近江商人の末裔たち』ミネルヴァ書房、2010年。共著『変革期の商人資本-近江商人丁吟の研究』吉川弘文館、1984年。



近江商人が初めて歴史に登場してくるのは鎌倉時代、約800年前です。江戸、明治、大正時代にかけて大活躍をしている。今の日本の老舗企業の中には、近江商人の系譜につながる企業がたくさんあります。営利、短期利益を最大の目的にしておらず、長く続けることが大切と考えていました。金持ちになるには「儉約して一生懸命に働く」得意先の儲けを図ることが自分の利益に繋がる。人をあざむくような商品は扱わず薄利多売を心がけた。

「三方よし経営」は近江商人の代名詞になっている。「売り手よし、買い手よし、世間よし」で世間よしを含んでいることが特色。社会性に気づいていた。売り手がはじめにきているが、この売り手とは従業員のことを言っている。従業員が満足して初めて買い手が満足できる。喜んで働くことに意義を見出している。それだけではなく、取引自体が社会的に貢献するものでないといけな。近江商人の経営理念というのは、現代的な意義を持つことになるわけです(企業のCSR社会的責任の源流)。世間よしでないと商売が続かないことを知っていた。近江商人は他国で商っていた。上方の完成品を地方で販売、地方の生糸・ベニハナなどを上方に持ち帰っていた。現在の商社活動の始まり。伊藤忠、丸紅、ワコール、西川・・・などは皆、近江商人。

日本は老舗大国で、創業100年以上の会社は5万社ある。200年以上の会社は世界の40%が日本企業。なぜ日本には長寿企業が多いか？ そのひとつの謎を解くときに、近江商人があるのではないかと思うわけです。

近江商人が一地域から全国に、世界に飛躍したには①歴史的基盤があった。中世、比叡山で座(特権)の商人で楽市楽座で活躍。②地理的条件。都に近く交通の要所で東海道・中山道・北国街道などが通っていた。③社会的基盤があった。近江商人のものは農民で商売に成功すると本店を立派にして若い人々の励みになった。近江商人は何処に行ってもよそ者(地元出身ではない)であることを強く認識し地域の貢献を大切にしていた。

## 陰徳善事の実践

近江商人は、人に知られずに善行を積んだ。

商いに従事して資産を築いた近江商人が次に望んだことは、子孫の長久と家業の永続でした。そのためには人に知られず善行を積むこと、すなわち陰徳善事(いんとくぜんじ)の実行だったのです。天保の飢饉(1833～36)の時に米を寄付したり、働き口を作るために自宅の建築をしたのが藤野四郎兵衛です。

丸紅を創った人は伊藤忠兵衛という近江商人です。その丸紅の元専務だった古川鉄治郎という人は自分の還暦の記念に、故郷に小学校を寄付しました。アメリカ人の設計で当時としては斬新な建物でした。ところが平成10年代にその保存が社会問題となったときでも、寄贈者の名前が世に出ることはまったくありませんでした。陽徳から陰徳に化した例です。

カナダには滋賀県人が多い。明治になって鎖国が解禁になり、自由に外国へ出かけられるようになってから、日本人は朝鮮半島、中国、南北アメリカへ出て行きました。その中で北米へ出てきた人の割合が一番多かったのが滋賀県でした。移民として渡ってきて商売を始めた代表的なものが絹布商事会社シルコライナー(Silk-O-Lina)で、共同組織によって店舗を広げ、最盛期(1960年代)にはカナダ中西部に18の店舗を展開していました。カルガリーの本店が閉鎖されたのは1991年でした。経営者たちは現在90歳を超え引退しています。

なぜ現代に通用するような経営理念に到達できたのか近江商人の商売の特徴は何だったのでしょうか？

彼らの活動範囲が近江でなく、国外(県外)であったということです。国外に行商に出かけたり、国外に出店を持つたりしたわけです。そのことを『他国商い』といいます。出先の信頼を得る、信用を獲得することが重要でした。出先の人たちのためになっているか、重要な存在であるかを評価してもらえないと、外来商人として存続、定着が出来なかったからです。儲けた物を全部自分の故郷に持って帰ってしまうと思われたのでは、商売は長続きしません。だから「世間よし」と言われていたのです。

移り変わる世の中で、会社を続けるということは大変ですね？

会社を続けるということが雇用を確保し、税金を納めるという社会貢献につながります。関連した分野に出て行ったり、人の流れによって会社を変えていくことも出来ます。ただ経営理念だけは変えずに、明確にきちんとしておくことが大切だと思います。

最近、企業不祥事が多発しています。企業倫理が欠如しているのです。短期の利益を求めすぎるから不祥事が起きるのでしょう。今こそ、「三方よしの精神」が大切です。